



交通安全の願い込め ひまわりの絆



▲天塩高校での苗の植え付け作業の様子

「ひまわりの絆プロジェクト」は、平成23年に京都府内で発生した交通事故で亡くなった当時4歳の男の子が幼稚園で育てていたひまわりの種を引き継ぎ、交通事故根絶の願いを込めて全国各地で花を咲かせるという運動で、平成28年度から行われています。

6月18日に天塩高校の全校生徒でひまわりの苗の植え付けが行われ、翌19日にはこども園きりん組の園児10名で種まきが行われました。秋には種を収穫し、また来年度のプロジェクトへと繋いでいきます。



運転シミュレーターを体験



▲仲間に見守られながらシミュレーターを体験する外国人実習生

6月15・16日の2日間、天塩警察署は道内に1台しかない最新の運転シミュレーターを使用した運転診断を実施しました。この運転シミュレーターは運転席を再現した椅子に座ってモニターに表示される仮想道路を走行し、死角から飛び出す子どもやバイク、見通しの悪い交差点でのヒヤリとするシチュエーションなどを体験できます。天塩郵便局で開催した15日は20名が参加。天塩警察署で開催した翌16日は町内在住の外国人実習生5名も体験に訪れ、危険を予測しながら運転することの重要性を学びました。



奉仕団が介護タオルを寄贈



▲タオルを寄贈した天塩町赤十字奉仕団の草刈委員長（左）

6月30日、天塩町赤十字奉仕団の草刈房子委員長らが町立病院を訪れ、介護タオル約4700枚を寄贈しました。

介護タオルは、使い古したタオルや不要になった衣服といった古布を、団員らが使いやすいサイズに裁断したもので、使い捨てのタオルとして院内の様々な場面で活用されています。同奉仕団は長年にわたりこの活動を続けており、今年は団員らが集めた古タオル等のほか、天塩町無線赤十字奉仕団（齋藤啓司委員長）から提供されたダンボール4箱分のタオルも含めて製作しました。



鏡沼でカヤック体験



▲午後の部のツアー参加者ら

6月27日、鏡沼で「コミュニティカフェ」「おさる」+（ネトテブラス）とのコラボによるカヤックツアーが開催されました。あいにくの雨模様となり、雨脚が強まったお昼の時間帯のツアーは中止となりましたが、留萌や稚内から集まった11名が体験。鮮やかに開花したスイレンなどを間近に楽しみながら約1時間かけて沼を周遊し、カフェでのランチも楽しみました。初めてカヤックに乗ったという留萌市の女性は「漕ぐことに精一杯だったけれど、最後になってコツがつかめた。気持ちよかったです」と語りました。



老人クラブが親睦PG大会



▲プレーを楽しむ参加者（左）と1位の古庄さん（右）

7月2日、町運動公園で「第1回天塩町高齢者親睦パークゴルフ大会」が開催され、老人クラブのメンバー18名が参加しました。晴れ渡った空と夏の訪れを感じる日差しの下、18ホール・2コースをプレー。パークゴルフに不慣れな参加者には経験者が助言しながらコースを廻るなど、終始和気あいあいとプレーを楽しんでいました。第2回は9月に開催される予定です。

《結果（スコア）》1位…古庄信子（55）、2位…加藤壽幸・菅井愛子（56）、4位…白田ツル子（59）、5位…伊藤千尋・今野光子（63）



羽幌フェニックスMが全道出場



▲出場報告に訪れた羽幌フェニックスミドルのメンバー

留萌管内の中学生で構成される野球チーム「羽幌フェニックスミドル」は、7月28日より帯広市で開催される「令和8年度北海道中学校体育大会・第77回北海道中学校軟式野球大会」と、8月22日より広島県で開催される「第37回瀬戸内少年軟式野球広島県交流大会」に出場することが決まり、7月1日に吉田町長へ出場報告を行いました。天塩中2年生の中岡憂莉さんは「中体連では留萌管内代表として、広島の大大会では北海道代表として、全力プレーで優勝を目指します」と抱負を語りました。



女性防火クラブ30周年



▲心肺蘇生法やAEDの使い方を学ぶ会員ら

7月4日、町社会福祉会館で「天塩町女性防火クラブ設立30周年記念防火防災フェア」が開催されました。天塩町女性防火クラブは「家庭で火気を使用する機会が多い女性に、もっと火災予防の知識を」と、平成8年7月1日に「婦人防火クラブ」として設立し、消火訓練やボランティア活動などを続けてきました。会員らは参加した町民らとともに、災害時に避難所で使用されるダンボールベッドの組み立てや訓練用の人形を使った心肺蘇生法を体験し、お昼には非常食を試食しながら交流しました。